

2025 年度 JSAF 方針

【はじめに】

2024 年度は、従来からの基本的な事業を遂行しつつ、2024 パリオリンピック競技大会での地元日本人組織との協力なども含めた効果的な支援体制の構築実践、日本パラリンピック委員会加盟団体として強化体制の整備、環境等に配慮したドローンマークの導入運用推進、若手セーラーの新たな艇種へのチャレンジ機会の提供、新たな協賛企業の獲得などの諸活動を推進し、20 年ぶりのオリンピックメダル獲得などの一定の成果をあげることができた。

また、2024 年度は、JSC 助成事業である組織基盤強化支援事業の最終年度であり、一定の成果を上げるべく、経営企画室の各プロジェクトについて精力的に取り組んできた。

一方で、東京 2020 以降赤字決算が続いている連盟の財政の抜本的な健全化への取り組みについて、具体策の検討と実施が必要であることを再認識した。

このため、2025 年度予算案策定に関しては、各委員会の収支差額の限度目標を設定し、各委員会が基本的にこの収支差額限度の範囲内で委員会ごとの予算案を策定する形で進めるという方針に基づき、JSAF としての 2025 年度事業計画、予算案を策定した。

2025 年度は、これまでの組織基盤強化支援事業の成果をもとに、以下の中期基本方針に基づいた活動を更に加速させるとともに、新規パートナーの更なる獲得、会員の増加を目指した取り組みを継続して、財政健全化実現へ向けた諸課題に取り組む。

【セーリングスポーツの価値】

セーリングは、「自然環境の中で、男女を問わず、年齢を問わず、障がいの有無に関わらず、一緒に楽しめる。また、誰もが自分に合った楽しみ方ができる。」という価値を持つインクルーシブなスポーツである。そのために、セーラーはジェンダー平等と障がい者参加を含む DEI(Diversity, Equity & Inclusion：多様性・公平さ・包括)や環境保全に積極的に取り組んでいる。

【中期基本方針】

連盟は、「セーリングスポーツの価値」を活力の源泉とし、JSAF VISION「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」の実現に向けセーリングスポーツの国内認知度を高める。セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展のために、会員と加盟する団体とともに連盟の力を結集して、DEI や環境保全を推進し、先進的な競技団体になることを目指す。また、セーリングスポーツの魅力発信、社会共生、収入源増加にむけた新しいチャレンジを行う。

【2025 年度の重点施策】

I. もっと身近になる (Easy Access)

セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大する。

- (a) 地域社会の人々に「Start Sailing」を呼びかけ、セーリングの開始や再開の場を提供する。
- (b) 海洋環境問題への取り組みを拡大し、この取り組みを社会に対して広く発信する。

- (c) ジェンダー平等と障がい者参加を含むインクルーシブな取組みを推進し、それらの成果を広く社会に発信する。
- (d) セーラーのライフステージに合わせた、普及に関する JSAF 全体としての方針の再定義を行い確立する。

II. 関わり続ける (Open Community)

国内外の情報を収集し、連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元する。

- (e) 加盟する団体間や他の組織（ヨットクラブ、自治体や企業、個人、マリーナなど）と連携し、セーリングに関わるコミュニティを創設し、地域振興に貢献する。
- (f) 年齢や環境が変わっても誰もが自分に合ったセーリングを続けられるように、セーリングスタイルの多様性を守り、シーマンシップや生涯スポーツとしての価値を高める。
- (g) 全国のセーラーが満足できるレース品質を維持するためのオフィシャルズの人材育成を行う。
- (h) 効率化等の観点から業務を見直しつつ、次世代に引き継ぐための組織体制を整備・維持・強化する。
- (i) 継続的に規程の見直しを行うなど、透明性の高い運営や、健全な財政、組織強化を目指し、スポーツ・コンプライアンスを遵守できる組織体制を整える。
- (j) 全国のヒヤリハット体験や安全にかかわる情報共有や通信環境整備、人材育成により、事故の極小化を目指す。

III. もっと強くなる (High Performance)

新しい「勝ちに行く体制」を継続推進し、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会でのメダル獲得を目指す。更にブリスベン 2032 オリンピック競技大会に向け次世代選手を計画的に育成するとともに、多様で幅広いセーリングを支援し、強化する。

- (k) より強く (Enhance) : LA2028 大会での連続メダルの獲得(470 クラス)、1 種目以上の入賞を目指す。
- (l) よりひろく (Expand) : LA2028 大会に向けた次世代強化/LA2028 大会での国粋獲得種目の維持・拡大を目指す。
- (m) 未来へ繋げる (Lead to the Future) : ブリスベン 2032 大会以降を見据えた持続的成長可能な組織体制の構築を行う。具体的には、JSAF 自己財源の拡充、強化拠点機能の強化、スタッフ人材育成、育成・強化教材のアップデート・横展開を推進する。
- (n) 上記 (k)、(l)、(m)の方針を基に、人的・物的資源配置の最適化を加速させる。
- (o) ブリスベン 2032 大会におけるパラリンピック競技の復活、及び 2025 年度に新たに始まるワールドセーリング・インクルーシブ世界選手権に向け、障がい者セーリングを推進し、選手を強化する。
- (p) 愛知・名古屋アジア競技大会（愛知・名古屋 2026 大会）セーリング競技の開催、運営に向けて、愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会と連携して、テストイベントの実施を含めて JSAF としての運営体制の確立を図り、必要な準備を開始する。
- (q) セーラーのライフステージに合わせた強化に関する JSAF 全体としての方針の再定義を行い確立し、オリンピック種目に偏ることなく、キールボート、外洋など、総合的に強化支援する。

以上